

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる力の育成を目的として、授業改善をさらに進める。</p> <p>② 高大接続を見据えた教育活動の展開、中・高間の教育活動の連携を進める。</p>	<p>① 生徒の主体性をより引き出す授業の実践に向けて、組織的な授業改善の進展を図る。</p> <p>② 高校改革に示された中高大連携型教育の検討を開始する。</p>	<p>① 未作成科目の到達度達成表(ルーブリック)を作成する。</p> <p>① 授業の場で使用可能なルーブリックに仕上げる。</p> <p>② 横浜国立大学附属横浜中学校との連携で実施している総合的な学習の時間の取組を深化させる。</p>	<p>① 未作成科目のルーブリックを作成したか。</p> <p>① 生徒による授業評価の項目4(生徒主体)において、教科全体の「かなりあてはまる」「ほぼあてはまる」の回答率が8割以上か。</p>	<p>① 各職員がルーブリックを作成し、評価活動を行うことを目標にして職員研修会を実施した。</p> <p>① 校内研修をとおして、ルーブリック評価を活用すべきかを全職員で考察、協議した。</p> <p>① 生徒による授業評価の項目(生徒主体)において、教科全体の「かなりあてはまる」「ほぼあてはまる」の回答率は前期77%から後期83%へと向上した。</p> <p>② 中高の連携行事として附属中学校説明会(6月)、i-ハーベスト発表会(9月)、交流授業(10月)を実施し、学校説明会は95%以上の肯定的な評価を得た。12月には横浜国立大学との連携による見学会(2学年生徒全員対象)を実施した。</p>	<p>① 職員研修会等を通して、ルーブリック評価の有効性についてさらに研究する必要がある。</p> <p>① 次年度の前期授業評価の項目4(生徒主体)において、教科全体の「かなりあてはまる」「ほぼあてはまる」の回答率は80%を超えるようにする必要がある。</p> <p>② 次年度以降、i-ハーベスト発表会の実施時期について、両校の教育活動や行事予定を勘案しながら、決定していく必要がある。</p>	<p>① 職員研修会が計画的に行われている。研修が研修で終わらず、実践につながるよう引き続き研修を重ねる必要がある。</p> <p>① 生徒主体の授業については、学校全体で継続して取組んでいってほしい。</p> <p>② i-ハーベスト発表会では、横浜国立大学や、附属横浜中学校との連携を踏まえ、それぞれの研究成果を共有でき、大変素晴らしい会であった。連携の深化が感じられる。</p>	<p>① ルーブリック評価の意義について職員間の共通理解が十分に図られた。作成したルーブリックの精査が求められる。</p> <p>① 生徒による授業評価項目4(生徒主体)の肯定項目の回答率は向上してきているのでさらに伸ばしていく。</p> <p>② 横浜国立大学や、附属横浜中学校との連携行事が充実してきているので、継続して実施できるようにする。</p>	<p>① 作成したルーブリックの精度を高め使いやすしいルーブリックの作成を目指す。</p> <p>① 生徒による授業評価項目(生徒主体)の肯定項目の「かなりあてはまる」の回答率を伸ばす。</p> <p>② 横浜国立大学教育学部をはじめ他の学部との交流を深める。</p>
2 生徒指導・支援	<p>① 部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと、協働し支える力を育む。</p> <p>② 生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p>	<p>① 部活動の高い加入率を維持し、さらに活性化を図る。</p> <p>② 部活動等をとおして、生徒一人ひとりの高校生活の満足感を高めることを図る。</p>	<p>① 部活動そのものの活性化とともに、様々な発信や、校内アンケートによる意識調査等により、生徒の意欲を引き出したり、沈思したり熟考したりする姿勢を引き出す。</p>	<p>① 部活動加入率は8割以上か。</p> <p>② 校内生活アンケート等において、学校に満足しているという回答が6割以上か。</p> <p>③ 「今年は生徒と向き合う時間が増えた」という教員が1人以上いる。</p>	<p>① 部活動加入率は9割を超えた。</p> <p>② 学校生活アンケートで、「光陵高校に入学してよかった」、「学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒がほぼ9割いた。</p> <p>③ 「今年は生徒と向き合う時間が増えたか」のアンケートに、38名中20名が「はい」と答え、18名が「いいえ」と答えた。</p>	<p>① 部活動、委員会活動を通して、生徒一人ひとりの満足感を高められるように指導・支援を継続していく。</p>	<p>① 様々な理由で退部し、別な部活動に参加して満足感を高めようとする生徒もいるので、生徒個々の状況に応じた丁寧な生徒指導対応が必要である。</p>	<p>① 部活動の加入率は高く、熱心に活動をし、その成果もあがっているため、更なる加入率の向上と満足感の向上が望まれる。</p> <p>② 学校生活アンケートでの満足感が高いが、不登校傾向にある生徒に対する支援体制をさらに充実させていく必要がある。</p>	<p>① 生徒の活動が充実できるよう環境整備、支援体制の強化に努める。</p> <p>② 生徒の個別状況については、担任、学年、養護教諭、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、管理職等、情報共有をし、適切な対応をしていく。</p>

3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが、能力や特性を活かして社会に貢献できるようなキャリアガイダンス等の充実を図るとともに、希望する進路実現に向けた支援をおこなう。	①生徒に進学について真剣に考えさせる。 ②行きたい大学を見すえ、その大学を第一志望とするよう支援する。	①キャリアガイダンス、進路に係る面接の充実を図り、生徒の進路意識を高める。 ②入学当初において国公立志向の生徒が多い。その希望を継続させるよう支援をする。	①進路目的を明確にし、その第一志望校を受験した生徒は7割以上か。 ②第一志望の大学への進学を実現するため、さらに進学準備にあてる生徒が一定数存在する。(現役合格者数により数値が変わるので、目標数値はない)	①3学年当初の第一志望校を受験した生徒はほぼ7割いた。 ②進学準備者は各クラス10名前後存在しており、あくまで第一志望を貫こうとしている。	①自分の力で受験に向かおうという生徒を育てていくために、学校全体で支援体制を整えていく必要がある。 ②第一志望を変えない生徒の気持ちに寄り添い、支援する。	①年間を通したキャリアガイダンス等により、生徒の支援を組織的、計画的に実施していることは評価できる。 ②掲げた目標に向かって進む勇気は、こころ優しき社会のリーダーに必要だと考えるので、学業や将来の進路について悩む生徒への丁寧な対応、支援に努めてほしい。	①年間指導計画に従い各学年でキャリアガイダンスを実施しているが、第一志望校をあきらめざるため、第一志望に挑戦する環境を整える必要がある。 ②第一志望を目指す進学準備者が存在するので、大学以降のキャリアを見据えた納得のいく進路選択ができるよう指導、支援を継続していく。	①大学受験等を控えた3年生の受験対策を行なう。 ②大学卒業後のキャリアを見据えた大学選択が行われるよう支援する。
4	地域等との協働	①地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育む。	①地域に信頼される生徒であるので、さらに信頼を高められるよう、地域との連携を図る。	①部活動、ボランティア等による地域との連携をさらに進める。	①参加した生徒自身が、自己肯定感、協働、活動の楽しさ等の満足感を獲得することができたか。	①保土ヶ谷養護学校との交流事業(授業交流・スポーツ交流・クリスマスコンサート)、地域貢献活動、権太坂小学校と交流し、生徒は楽しそうに活動していた。	①今後はさらにボランティア活動への取り組みを活性化できるよう支援する。	①保土ヶ谷養護学校との交流事業によって、様々な状況にある人たちとお互いに尊重しあうこと大切さを学んでおり、継続して行ってほしい。	①近隣学校との交流事業の実施や、地域貢献活動で地域との信頼関係を築き、生徒の社会性の育成もできている。地域の信頼をより高めたい。	①近隣学校との交流事業や、地域貢献活動を継続実施し、深化させる。
5	学校管理 学校運営	①職員全体が、質の高い授業を行うために、施設、防犯等に心を配り、生徒が安心して通うことのできる、安全で楽しく、心温まる学校環境づくりを推進する。	①不祥事防止に努める。 ②耐震工事に向けた年度の工程を遅滞なく進める。	①グループ主導の不祥事防止会議、研修会の実施により、不祥事防止の切実性の理解を図る。 ②生徒の教育保証を観点の第一義として、耐震工事設計についての学校の意見を明確にしておく。	①グループ主導の不祥事防止会議を年間で5回以上開催できたか。 ②耐震工事設計は学校として満足できるものになったか。	①様々なテーマで事故防止会議を5回以上開催した。 ②耐震工事設計については、各部署からの要望を集約して要望するなど予定どおりに進んだ。	①課題を適切に把握し、課題に応じた事故防止会議を実施する。 ②耐震工事について、来年度は物品の移動計画を速やかに進める必要がある。	①高校入試は、大きなミスもなく終了したので、ほっとしている。 ②耐震工事での仮設校舎の建設に伴う大型トラックの通過なども想定されるので、安全第一で進める必要がある。	①不祥事防止会議を定期的実施し、日頃からお互いに声をかけあうなどして、不祥事防止に努めた。不祥事を起こさない環境づくりを引き続き行う。 ②耐震工事仮設設計はほぼ終了したので、具体的実施に向け、安全第一で準備を進める必要がある。	①継続して不祥事防止に努める。 ②耐震工事で教育活動に支障のないよう、関係機関との調整を行い、安全安心で快適な環境づくりに努める。